

制作概要

今回収録した作品は1963年頃に制作したものである。

新作を制作するに当たって、ふと過去の作品を検証したくなり屋根裏から引っ張り出してきたのはいいが、画は正直に40数年間の時間の痕跡を刻んでいて、思わず深い溜息が洩れた。当然のことながら、当時は画材の購入には常に経済上の制約があった。

画材といえは聞こえはいいが、実際は代用に耐えうるものを探し出して使用していたので耐用年数には自ずと限界があったのだろう。

作品を眺めている内に、その頃の社会的背景や生活、ことに制作に没頭していた日々への懐旧の思いが心を占有していき、新作の編集構想が出来上がっていたものの急遽、予定を変更して旧作品を収録することにした。

しかし、勿論、懐旧の念だけが変更の動機になったのではない。実は、これらの作品は収納の関係で、無造作に何枚も重ねて筒状にして保管していたのだが、インクの油が他の作品に染みていって自然に転写の効果を果たし、そこに新たなイメージが生まれていたのである。大袈裟に表現するならば、長い眠りについていていたものが、新しい衣を纏って「復活」した瞬間に立ち会ったような感動だった。

私のこの感動の余韻を、この誌上で微かにでも感じとって頂けたらと思う。

また、これらの作品群を2006年春に番画廊の協力を得て、自身でキュレートし旧作のみの個展を開催した。

中馬 泰文

「1963/64 (prints) 作品集」

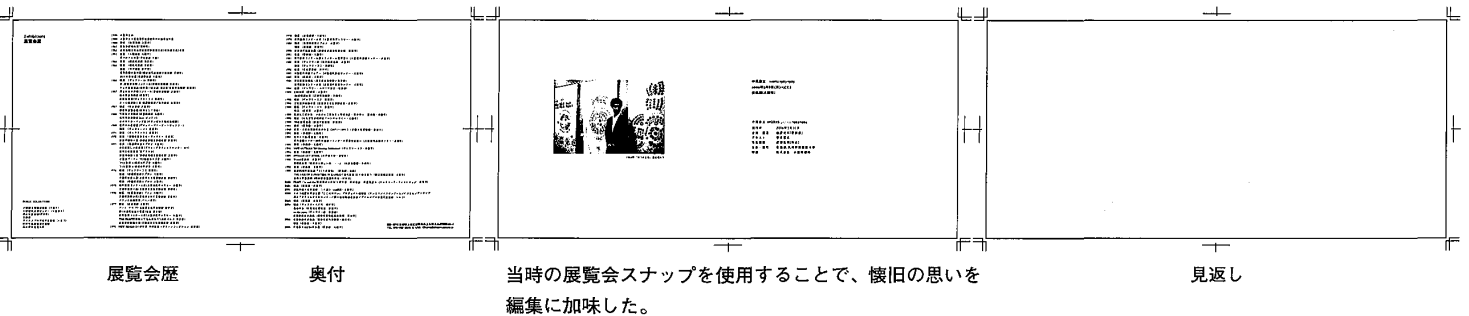
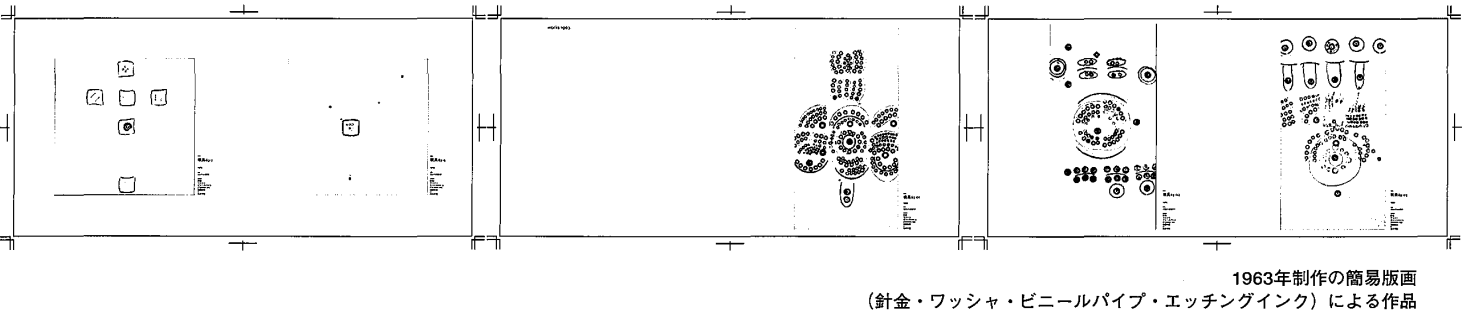
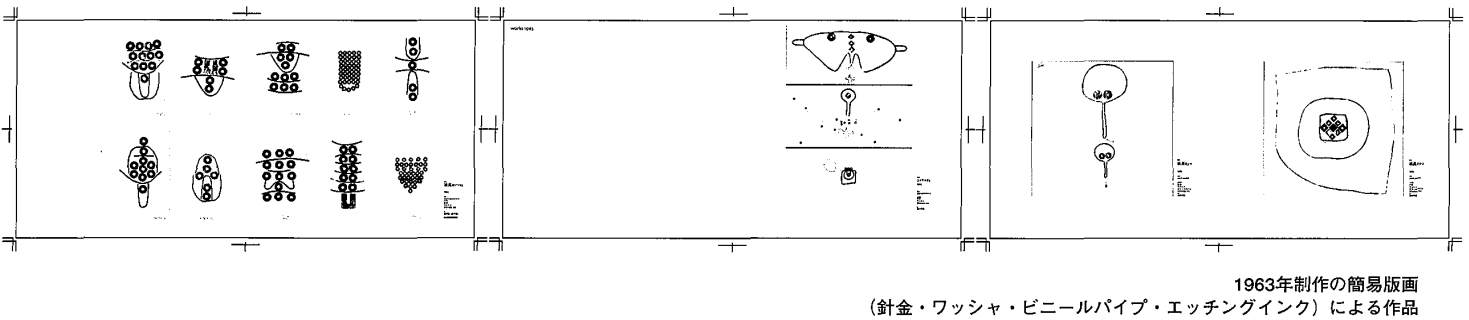
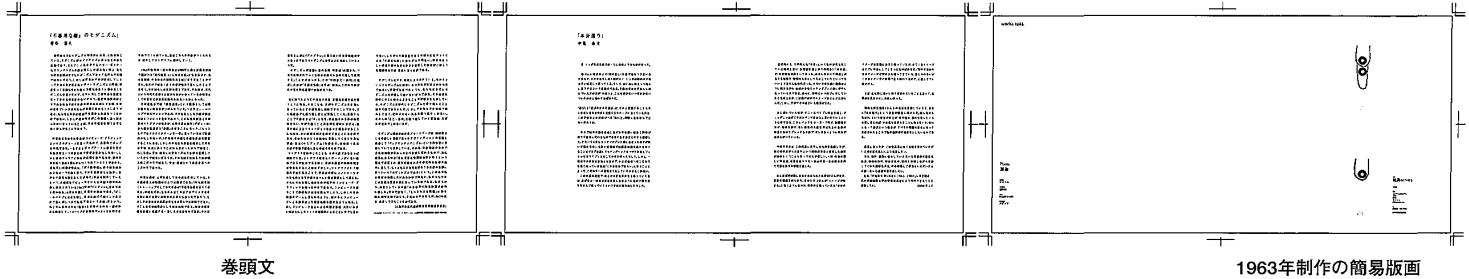
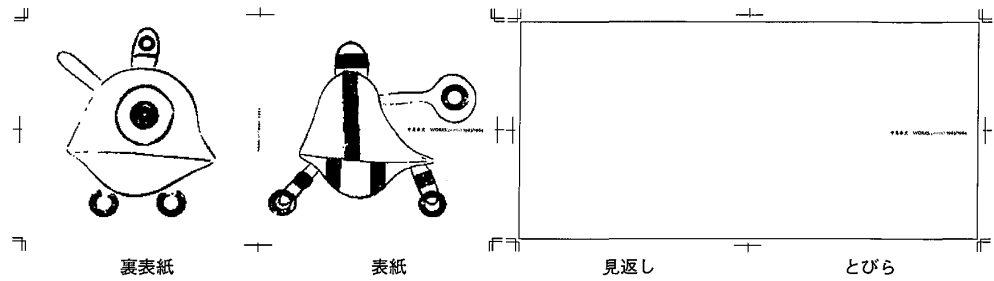
「中馬泰文個人展」

番画廊(大阪)

(2005年度特別研究助成金交付作品)

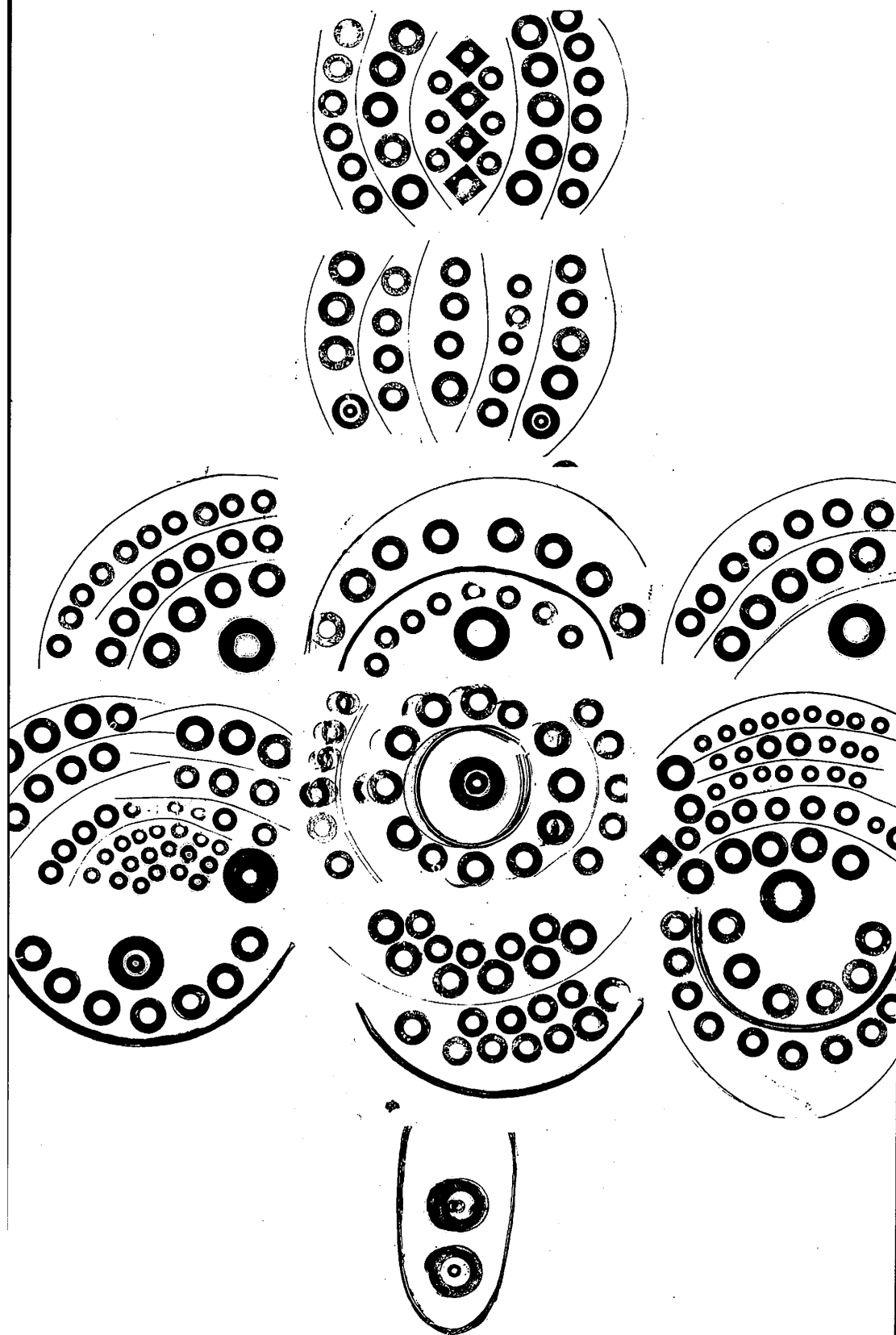
編集にあたっては出来るだけシンプルに当時の制作状況が推測されるようなイメージに留意した。

殆どの作品が無彩色系であることと、時代を経た痕跡を印刷効果に期待し、紙質の状態と汚れや傷などの部分も画像処理を施かずに出来るだけ現在の状態を顕著に表現するように印刷所に指示をした。



当時の展覧会スナップを使用することで、懐旧の思いを編集に加味した。

編集には本作品集の原点となった小品12点を巻頭に割り付けた。これらの作品は既に手元になく、大阪国立国際美術館に所蔵されている作品記録を基に収録した。以降は年代順に編集したものです。



中馬 泰文

中馬 泰文

玩具63-01

1963年

1800×905mm

ワッシャ・ビニールパイプ・

ETCHING INK・油絵の具・鳥の子紙

「中馬泰文63.64展」番画廊（大阪）

NII Electronic Library Service